

国内経済要録

◇昭和37年度第2次補正予算の成立

2月15日、昭和37年度一般会計補正予算第2号、特別会計補正予算第2号および政府関係機関補正予算第2号がそれぞれ成立した。一般会計の補正は、産投会計への繰入れおよび失業保険費国庫負担金、生活保護費など義務的に必要とされる経費、地方交付税などが主たる内容で、財源としては租税の自然増収の一部が充当された。また特別会計については、上記一般会計の補正に伴い、交付税および譲与税配付金特別会計などにつき所要の補正が行なわれたものである。一方政府関係機関の補正は、国鉄に対し東海道新幹線工事費の追加がなされたもので、その財源は財政投融资(資金運用部)でまかなわれている。

昭和37年度一般会計第2次補正内訳

(単位・億円)

歳入追加額		歳出追加額	
源泉所得税	270	産業投資特別会計資金へ繰入れ	350
申告〃	201	義務的経費の精算不足補てん	206
法人税	350	(うち失業保険費負担金)	(66)
		(生活保護費)	(43)
		(国民健康保険助成費)	(36)
		(義務教育費)	(26)
		(その他)	(35)
		国際連合公債買入費	18
		地方交付税交付金	237
		その他	10
計	821	計	821

(注) 37年度一般会計予算規模は今回の補正で2兆5,631億円、前年度補正後予算に比べ21.6%の増加となった。

◇昭和38年度地方財政計画

自治省は2月12日、昭和38年度の地方財政計画を発表した。計画策定の方針および内容の概要次のとおり。

(1) 健全均衡財政を堅持しつつ、地方行政水準一般の向上をはかり、かつ、地域開発の促進と地域格差の是正をはかることを目途として、次の諸施策を講ずる。

イ、地方税負担の軽減合理化をはかるとともに、電気・ガス税減税に伴う地方の減収補てんのため、たばこ消費税率を引上げ。

ロ、公共投資にかかる財源の充実と地方債資金の増額。ハ、財政力の貧弱な地方公共団体の財源充実と辺地における公共的施設の整備促進。

ニ、地方財政の秩序確立のため、地方公共団体相互間の負担関係を適正化。

(2) 財政規模は2兆6,336億円で、前年度計画に対し15.3%(前年度の対前々年度比+19.5%)とかなりの増加。

(3) 歳出面では、公務員給与の引上げなどによる給与費の大幅増加のほか、投資的経費、一般行政費も引き続きかなり増加。

(4) 財源面では、地方税が電気、ガス税、市町村民税などの減税、景気調整の影響による法人事業税の不振などにより前年度計画比+13.7%(前年度の対前々年度比は+22.2%)と伸び悩むこととなる結果、国庫支出金および地方交付税への依存は増大。

昭和38年度地方財政計画

(単位・億円)

		昭和37年度計画	昭和38年度計画	前年度比増減(Δ)額
歳入	地方税	9,309	10,582	1,273
	地方交付金	312	358	46
	国庫支出金	4,581	5,503	922
	地方債	6,185	7,224	1,039
	雑収入	879	997	118
	雑入	1,584	1,672	88
計		22,850	26,336	3,486
歳出	公債的経費	953	1,044	91
	消費的経費	13,101	15,237	2,136
	(給与費)	(8,440)	(9,821)	(1,381)
	(一般行政費)	(4,661)	(5,416)	(755)
	投資的経費	7,944	9,143	1,199
	(うち公共事業費)	(4,323)	(5,020)	(697)
維持補修その他	単独事業費	2,820	3,210	390
	維持費	574	634	60
	その他	278	278	—
計		22,850	26,336	3,486

(注) 単独事業費は国庫補助を伴わない建設事業費。

◇日ソ貿易支払協定の締結

日ソ貿易支払協定は、2月5日東京において調印された。これは旧協定の期間(1959年12月6日～1962年12月31日)満了に伴い、その間の貿易実績をもとに検討を加え、新たな協定を締結したもの。その大要次のとおり。

(1) 有効期間は1963年1月1日から1965年12月31日まで。

(2) 貿易目標額(輸出入往復、FOB現金ベース)は3か年合計で670～700百万ドル(旧協定当初目標比50～60%増)。

(3) 1963年計画は、輸出136百万ドル(前年計画比+13%)輸入115百万ドル(同+9.5%)。

(4) 主要品目は次のとおり。

輸出——各種船舶、機械設備、鋼材など(新たに加わった品目は漁船、一部プラントなど)

輸入——木材、石炭、銑鉄、原油、重油、カリ塩など(従来とほとんど変わらず)

(5) 決済通貨は交換可能各種通貨(従来と同じ)